

滝沢市議会全員協議会資料

[滝沢市国民健康保険の財政見通しについて]

平成 3 1 年 2 月 2 0 日

健康福祉部 保険年金課

[滝沢市国民健康保険の財政見通しについて]

1 国民健康保険の広域化について

平成30年度からの国保広域化により、あらたに県も国民健康保険の保険者となり国民健康保険の財政運営の責任者となった一方、市町村はこれまで同様に保険給付や保健事業の実施、国民健康保険税の賦課徴収を行っています。

市町村が保険給付で支出した全額は、その年度中に県から保険給付費等交付金として交付されますが、保険給付費等交付金の財源のひとつは、市町村が県に納める事業費納付金であります。

事業費納付金は、県が県全体の医療費推計を行い、国からの公費負担分等を差し引いた金額を市町村毎に被保険者数や医療費水準、所得水準等を基に割り当てるものです。

つまり、これまでは自市町村分の保険給付を賄うために国民健康保険税を賦課徴収していましたが、国保広域化により、県全体の保険給付を賄うための事業費納付金を納付するために国民健康保険税の賦課徴収することになったことになります。

2 平成31年度の国民健康保険事業費納付金について

平成31年度の事業費納付金はおよそ12億5千万円となり、昨年度よりもおよそ1千400万円の減額となりました。

これは激変緩和措置により正規に算出された納付金額からおよそ6千万円減額されたことが影響しています。

なお、この激変緩和措置は国保広域化から5年間継続することとされていますが、その規模を年々縮小していくこととされています。

○事業費納付金

(単位：円)

| 区分 | H 3 0 | H 3 1 | 増減 |
|---------------|---------------|---------------|-------------|
| 激変緩和調整額前の金額 A | 1,273,103,590 | 1,309,815,056 | 36,711,466 |
| 激変緩和調整額 B | 9,305,984 | 59,757,447 | 50,451,463 |
| 事業費納付金 A－B | 1,263,797,606 | 1,250,057,609 | -13,739,997 |

3 国民健康保険の財政見通しについて

平成30年度の3月補正予算と平成31年度当初予算の編成状況から、平成32年度以降の国民健康保険の財政見込みを取りまとめました。

財政見通しの取りまとめにあたっては、①現在の国保税率を適用、②国民健康保険税は年1%減（被保険者高齢化による所得減、被保険者数減）、③保険給付費は年1%増（診療報酬・薬価改訂で伸び率鈍化傾向）としています。

各年度ともに、歳入不足のため、財政調整基金を取り崩し、基金繰入金として歳入に繰入を行わないと予算編成ができない状況であります。

○財政見通し

（単位：千円）

| 区分 | | | H 3 0 | H 3 1 | H 3 2 | H 3 3 | H 3 4 |
|----|-----|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 歳入 | 1 款 | 国民健康保険税 | 920,467 | 895,089 | 886,138 | 877,277 | 868,504 |
| | 2 款 | 使用料及び手数料 | 551 | 651 | 651 | 651 | 651 |
| | 3 款 | 国庫支出金 | 163 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 4 款 | 県支出金 | 3,371,810 | 3,435,216 | 3,379,841 | 3,413,739 | 3,447,977 |
| | 5 款 | 財産収入 | 68 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 6 款 | 繰入金 | 347,221 | 381,099 | 358,472 | 358,472 | 358,472 |
| | | 基金繰入金 | 26,210 | 93,452 | 162,633 | 159,111 | 155,638 |
| | 7 款 | 繰越金 | 270,355 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 8 款 | 諸収入 | 18,841 | 12,208 | 12,208 | 12,208 | 12,208 |
| 合計 | | | 4,955,686 | 4,817,718 | 4,799,946 | 4,821,461 | 4,843,453 |
| 歳出 | 1 款 | 総務費 | 87,134 | 129,108 | 93,909 | 93,909 | 93,909 |
| | 2 款 | 保険給付費 | 3,269,853 | 3,356,278 | 3,389,841 | 3,423,739 | 3,457,977 |
| | 3 款 | 国民健康保険事業費納付金 | 1,263,801 | 1,250,160 | 1,237,658 | 1,225,282 | 1,213,029 |
| | 4 款 | 共同事業費拠出金 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 5 款 | 保健事業費 | 60,079 | 77,648 | 74,016 | 74,009 | 74,016 |
| | 6 款 | 基金積立金 | 221,086 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 7 款 | 公債費 | 7 | 67 | 67 | 67 | 67 |
| | 8 款 | 諸支出金 | 53,723 | 4,453 | 4,453 | 4,453 | 4,453 |
| | 9 款 | 予備費 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 合計 | | | 4,955,686 | 4,817,718 | 4,799,946 | 4,821,461 | 4,843,453 |

4 財政調整基金の状況

財政調整基金は、東日本大震災分として被災県の市町村に手厚く国の特別調整交付金が交付されていることから、結果として平成31年5月末見込みでおよそ8億7千500万円となる見込みです。

しかしながら、この東日本大震災分の特別調整交付金は平成31年度の交付を持って廃止が決まっています。

現行の国保税率では、歳入不足となり財政調整基金を取り崩しての予算編成が余儀なくされ、この状況が続くと平成34年度末には財政調整基金はおよそ3億400万円まで減少すると見込まれます。

○基金の推移と今後の見込み

(単位:千円)

| 年度 | 東日本大震災 (特別調交) | | 単年度 収支 | 形式的 収支 | 基金 繰入金 | 基金 積立金 | 基金残高 (5月末) |
|-------|------------------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------|
| | 単年度 | 累計 | | | | | |
| H 2 3 | 568 | 568 | 172,273 | 263,066 | 73,008 | 142,382 | 284,699 |
| H 2 4 | 83,624 | 84,192 | △56,517 | 263,701 | 98,154 | 41,001 | 227,546 |
| H 2 5 | 225,232 | 309,424 | 55,976 | 509,413 | 226,264 | 36,528 | 37,810 |
| H 2 6 | 164,587 | 474,011 | 51,103 | 328,322 | 13,182 | 245,377 | 270,005 |
| H 2 7 | 141,314 | 615,325 | 8,120 | 144,819 | 65,159 | 256,782 | 461,628 |
| H 2 8 | 113,128 | 728,453 | 212,990 | 283,099 | 59,065 | 133,776 | 536,339 |
| H 2 9 | 84,600 | 813,053 | 130,914 | 270,356 | 66,324 | 209,982 | 679,997 |
| H 3 0 | 56,631 | 869,684 | △75,543 | 0 | 26,210 | 221,086 | 874,873 |
| H 3 1 | 28,390 | 898,074 | △182,390 | 0 | 93,452 | 1 | 781,422 |
| H 3 2 | 廃止 | — | △162,633 | 0 | 162,633 | 1 | 618,790 |
| H 3 3 | — | — | △159,111 | 0 | 159,111 | 1 | 459,680 |
| H 3 4 | — | — | △155,638 | 0 | 155,638 | 1 | 304,043 |

国保制度改革の概要(運営の在り方の見直し)

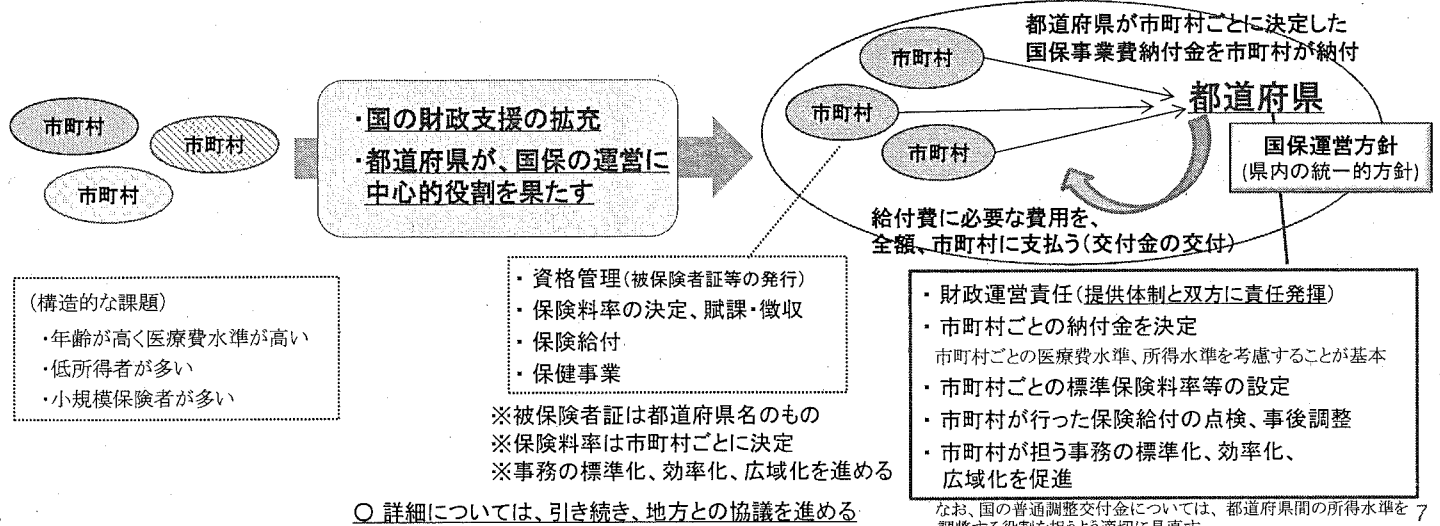
○平成30年度から、都道府県が財政運営の責任主体となり、安定的な財政運営や効率的な事業の確保等の国保運営に中心的役割を担い、制度を安定化

- ・給付費に必要な費用は、全額、都道府県が市町村に交付
- ・将来的な保険料負担の平準化を進めるため、都道府県は、市町村ごとの標準保険料率を提示（標準的な住民負担の見える化）
- ・都道府県は、国保の運営方針を定め、市町村の事務の効率化・広域化等を推進

○市町村は、地域住民と身近な関係の中、資格管理、保険給付、保険料率の決定、賦課・徴収、保健事業等、地域におけるきめ細かい事業を引き続き担う

【現行】市町村が個別に運営

【改革後】都道府県が財政運営責任を担う など中心的役割



国保制度改革の概要(都道府県と市町村の役割分担)

改革の方向性

| 1. 運営の在り方 (総論) | 改革の方向性 | |
|-----------------------|--|--|
| | 都道府県の主な役割 | 市町村の主な役割 |
| 1. 運営の在り方 (総論) | <p>○ 都道府県が、当該都道府県内の市町村とともに、国保の運営を担う</p> <p>○ 都道府県が財政運営の責任主体となり、安定的な財政運営や効率的な事業運営の確保等の国保運営に中心的役割を担い、制度を安定化</p> <p>○ 都道府県が、都道府県内の統一した運営方針としての国保運営方針を示し、市町村が担う事務の効率化、標準化、広域化を推進</p> | |
| | 財政運営の責任主体 | 国保事業費納付金を都道府県に納付 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・市町村ごとの国保事業費納付金を決定 ・財政安定化基金の設置・運営 | |
| | 国保運営方針に基づき、事務の効率化、標準化、広域化を推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と身近な関係の中、資格を管理(被保険者証等の発行) |
| | ※4. と5. も同様 | |
| | 標準的な算定方法等により、市町村ごとの標準保険料率を算定・公表 | <ul style="list-style-type: none"> ・標準保険料率等を参考に保険料率を決定 ・個々の事情に応じた賦課・徴収 |
| 2. 財政運営 | | |
| 3. 資格管理 | | |
| 4. 保険料の決定 賦課・徴収 | | |
| 5. 保険給付 | <ul style="list-style-type: none"> ・給付に必要な費用を、全額、市町村に対して支払い ・市町村が行った保険給付の点検 | <ul style="list-style-type: none"> ・保険給付の決定 ・個々の事情に応じた窓口負担減免等 |
| 6. 保健事業 | 市町村に対し、必要な助言・支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・被保険者の特性に応じたきめ細かい保健事業を実施 (データヘルス事業等) |

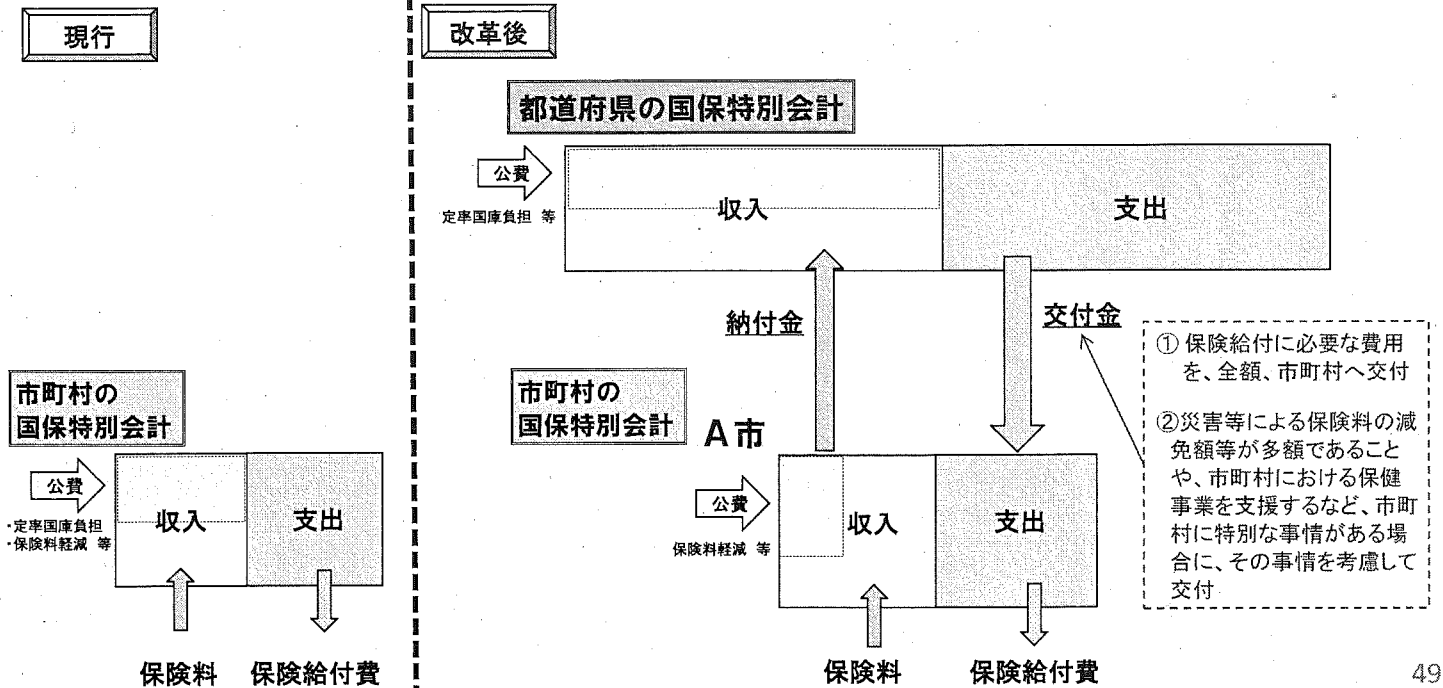
改革後の国保財政の仕組み

- 都道府県が財政運営の責任主体となり、市町村ごとの国保事業費納付金の額の決定や、保険給付に必要な費用を、全額、市町村に対して支払う(保険給付費等交付金の交付)ことにより、国保財政の「入り」と「出」を管理する。

※ 都道府県にも国保特別会計を設置

- 市町村は、都道府県が市町村ごとに決定した納付金を都道府県に納付する。

※ 納付金の額は、市町村ごとの医療費水準と所得水準を考慮

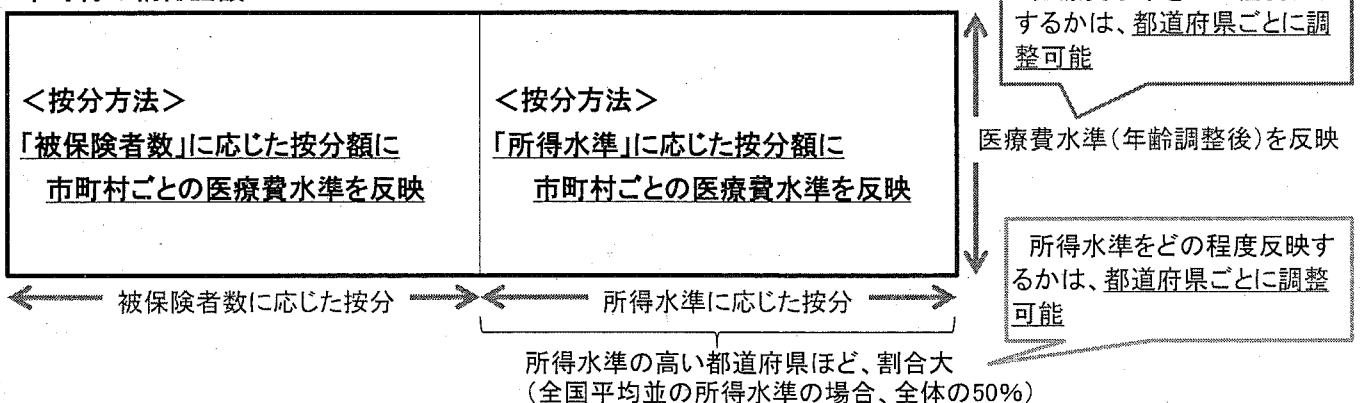


49

納付金の市町村への配分

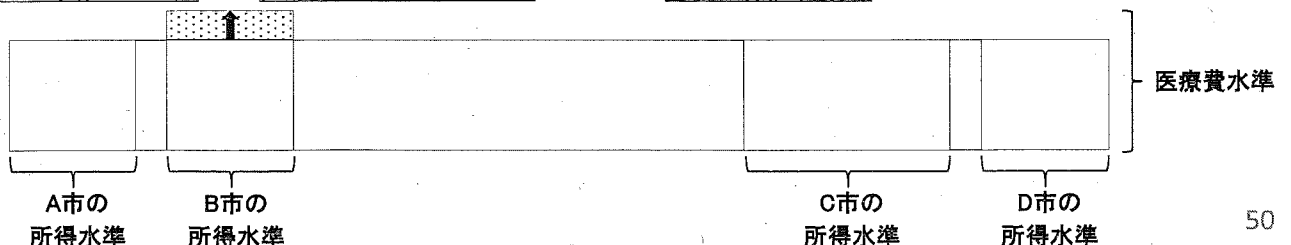
- 都道府県が、都道府県内の保険料収納必要額(医療給付費－公費等による収入額)を市町村ごとの「被保険者数」と「所得水準」で按分し、それぞれに「医療費水準」を反映することにより、市町村ごとの国保事業費納付金の額を決定

＜市町村の納付金額＞



- 市町村の所得水準が同じ場合、年齢構成の差異の調整後の医療費水準が高いほど納付金の負担が大きくなり、医療費水準に応じた負担となる。

- 年齢調整後の医療費水準が同じ場合、市町村の所得水準が高いほど納付金負担が大きくなり、公平な保険料水準となる。



50